

## シカ防護柵の維持管理に係る検討会を開催

令和6年11月21日（木）、豊田流域林業活性化センターは、「シカ防護柵の維持管理に係る検討会」を開催し、山口県西部森林組合と下関農林事務所の職員、10名が参加しました。

県西部地域では、防護柵による対策をしているにもかかわらず、植栽木がシカの食害を受ける事例が多く確認されています。防護柵は、土砂や倒木、動物からの攻撃により破損し、そこからシカが侵入するので、定期的な点検が必要となっていますが、なかなか点検を実施できていないのが現状です。

そこで、防護柵を点検するための費用や課題等を明らかにし、点検体制の構築に向けた検討をするため、本会を開催しました。検討会前には、山口県西部森林組合が、23箇所（9,747m）で点検を実施し、課題等を把握しました。

検討会では、アンカーの抜けやネットの破損等、防護柵の不具合が245箇所を確認され、その内225箇所を補修し、残りの20箇所は器具や資材が必要で、その場では補修ができなかったことが報告されました。

実際に点検をした職員から、課題や気づきが挙げられ、その対応策や点検費用等についての意見を交わし、今後の点検体制を模索しました。

豊田流域林業活性化センターでは、今後もシカ被害を減らすための取組みを継続していきます。



検討会の状況